

第16回広島高速道路公社運営会議

令和4年3月23日



広島高速道路公社

目 次

議題 1	広島高速道路の利用状況	
	(1) 事業計画	・・・・・・・・・・ 2
	(2) 交通の現状	・・・・・・・・・・ 3
議題 2	公社改革	
	(1) 「公社改革の方向性」の取組状況	・・・・・・・・・・ 6
	(2) グランドデザインの策定	・・・・・・・・・・ 8
議題 3	高速 5 号線の整備	・・・・・・・・・・ 10
	(1) トンネル区間の工事進捗状況	・・・・・・・・・・ 12
	(2) 住民の安心構築に向けた取組	・・・・・・・・・・ 14
議題 4	今後の取組：広島高速道路の機能強化	・・・・・・・・・・ 15

議題1 広島高速道路の利用状況

(1) 事業計画

- 高速1号線から5号線までの計5路線（29km）を、総事業費4,310億円により令和6年度までに完成する計画
- 高速1号線から4号線の4路線（25km）は、平成26年3月までに供用
- 現在は、高速5号線の建設を進めており、令和2年度末までに3,976億円（約92%）を執行



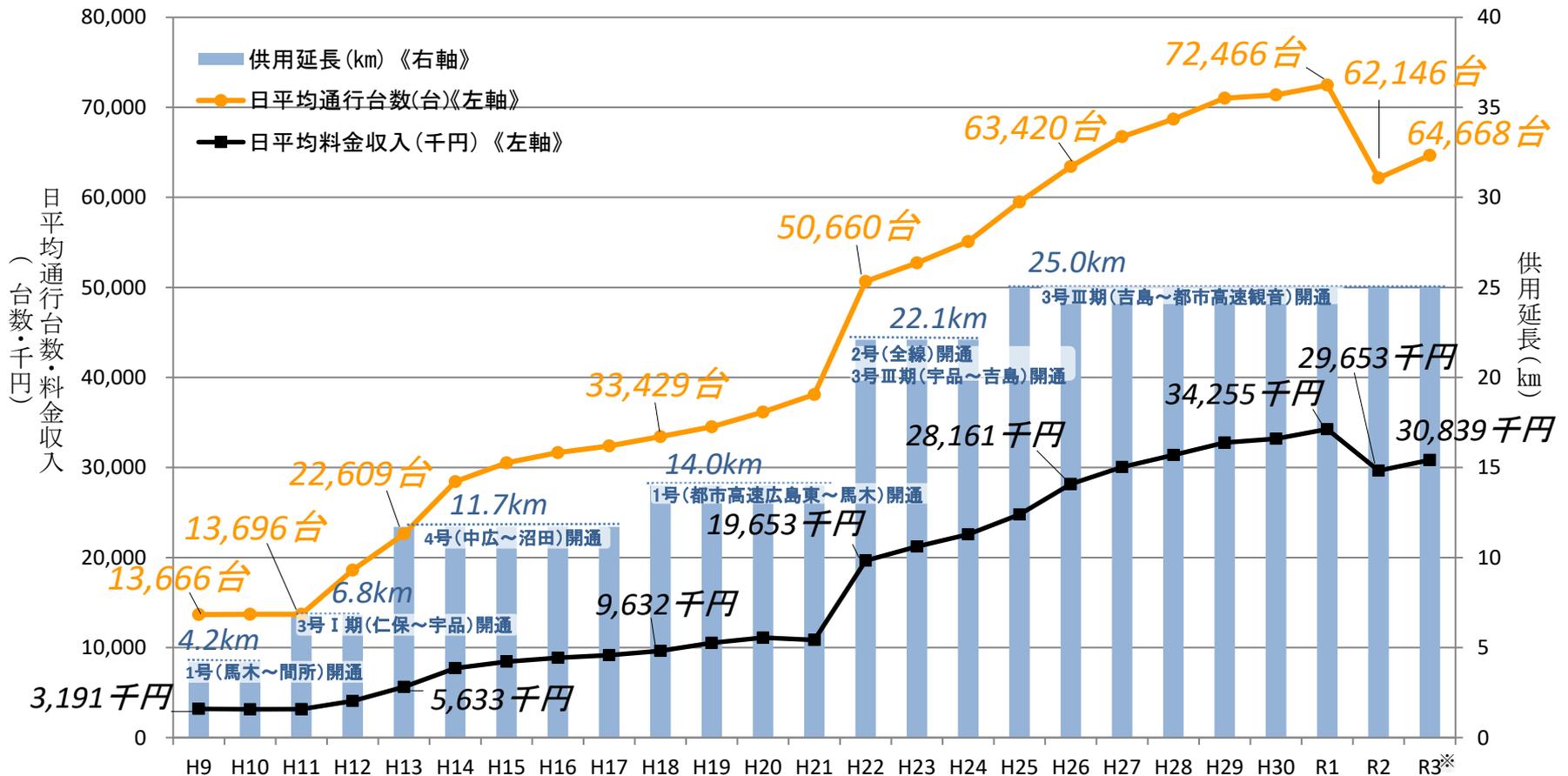
路線名	延長	総事業費	備考
高速1号線	6.5km	703億円	供用中
高速2号線	5.9km	1,013億円	
高速3号線	7.7km	956億円	
高速4号線	4.9km	380億円	
高速5号線	4.0km	1,259億円	整備中
計	29.0km	4,310億円※	

※路線毎に端数処理しているため、合計が合致しない。

凡例	
広島高速道路	整備計画路線
	供用区間 (2車線) (4車線)
	事業中区間
	未整備区間
	整備IC
	未整備IC
	基本計画路線等
	構想路線
	高規格幹線道路
	一般国道(直轄) (事業中区間)(供用区間)
その他有料道路	
その他道路 (未整備区間)(供用区間)	

イ 年度別交通量

- 日平均通行台数と料金収入は、平成9年度（公社設立）から令和元年度まで着実に増加
- 令和2年度は、感染拡大の影響がある中、令和元年度比86%を確保
- 令和3年度は、令和2年度に比べ日平均通行台数・料金収入とも増加の見込み



※R3: 令和3年度は1月までの確定値
(2月、3月分は含んでいない)

ウ 利用環境の改善や利用促進等の取組

- 毎年実施するお客様満足度調査で寄せられた意見への対応や利用促進につながる広報などを実施
- 利用促進策のアイデアを公社職員から募り、電子スタンプを活用したスタンプラリーの実施を予定

○お客様満足度調査への対応

【利用者の声】

- ・カーブ区間の安全性を高めてほしい。



- ・料金所入口への案内が分かりにくい。



○広報(映画ロケ地)



映画館に広島高速ナビマップを設置

○スタンプラリーのイメージ



JAF中国が実施した「JAFデジスタ2020」

○コスト削減に向けた取組

- ・道路照明のLED化によるライフサイクルコストの縮減
(令和4年度：西風トンネルの照明)



- ・ガソリン契約手続きの見直し
- ・複合機の継続使用契約への切替え

○道路利用者団体等の聞取り

(令和3年度)

- ・トラック協会、バス協会
- ・企業（製造業・陸運業等） 14社

議題2 公社改革

(1) 「公社改革の方向性」の取組状況

- 高速5号線シールドトンネル工事では、当初契約時に当事者間の認識の違いが生じたことから、変更契約により工事完成に必要な費用を増額し、契約金額を改める事案が生じた
- このような事態を二度と起こさないためには、抜本的な対策として、今後の様々な難しい判断を迫られる局面においても柔軟に対応できる強靱な組織力の構築が最も重要
- 令和2年12月に「**公社改革の3つの方向性**」を取りまとめ、具体的な取組を推進

1 公社ガバナンスの強化

○意思決定の適格化・円滑化

【経営会議を設置】

- ・ 公社運営の重要事項の意思決定を集中的に審議
- ・ 決定経緯を記録・保存し、過程を明確化

【経営会議の下に検討部会を設置】

公社運営の事務執行に係る検討を実施 etc

経営会議



○監理体制の強化

【監査室を設置】

- ・ 公社自らが通年監査を実施
- ・ 業務の適正化を推進

2 将来を見据えた組織づくり

○組織体制の強化

【管理運営体制を整備】

- ・ 事故対応や施設・設備の修繕更新等の業務を、より迅速で適切に推進するため 保安全管理部を設置

【行動指針を見直し】

- ・ 職員の意見を反映し、より浸透・実践的なものに改定 etc

○人材育成の強化

【職員の意識・能力の向上研修を実施】

- ・ コンプライアンス研修、技術研修会等の実施

【他団体への派遣研修を実施(広島市:1名)】

コンプライアンス研修(入札談合防止)



○主体的かつ円滑な公社運営の実現に向けたプロパー職員の登用、採用

【計画的な職員採用を実施】

- ・ 適切な人材を継続的に確保し、知識、経験を承継させる計画的な職員採用
令和4年度採用：2名（一般事務、電気）
令和3年度採用：2名（土木、電気）

【管理・監督者の視点から人材を育成】

- ・ ノウハウと経験を積んだプロパー職員を管理・監督職へ積極的に登用
令和4年度：係長に2名を新たに登用
令和2年度：課長、係長を各1名登用

3 職員が幸せを感じる職場環境の整備

○ICTを活用した職場環境の整備

【ICT基本計画を策定】

- ・労働生産性の向上やワークライフバランスの実現など、働き方改革の基盤として策定
- ・事務システムの導入、リモート環境整備、会議のペーパーレス化を推進



職場環境の向上に向けた意見交換



在宅によるリモートワークを推進

行動指針に対する職員の意識の変容

- 公社改革に取り組む中、職員自らの意見を基に行動指針を改定(令和2年12月)
- 行動指針を職務室に掲示するなど行動指針の意識付けを推進

【行動指針】

- ①私たちは、お客さまの視点に立ち、誠実に職務を遂行します。
- ②私たちは、公社の社会的責任を自覚し、高い倫理観をもって行動します。
- ③私たちは、様々な関係者との対話を大切に、良好な関係を築きます。
- ④私たちは、現状に満足することなく、変化に的確かつ柔軟に対応します。
- ⑤私たちは、効果・費用・スピードを意識し、業務の最適化を図ります。
- ⑥私たちは、誇りとやりがいをもてる組織づくりに取り組みます。

○行動指針に係る行動変容のアンケート調査結果

- ・行動指針改定等の取組により職員の意識変容が見られている状況
- ・具体的な取組事例もあるが、一層の浸透に向けて、取組の継続が必要
【アンケート調査】

□経営理念・経営コンセプト・行動指針の内容認知

令和4年2月	令和2年9月(改定前)
98.6%	80.4%

□行動指針に基づく業務実践

「常に」「概ね」行動している(全項目平均)

令和4年2月	令和2年9月(改定前)
85.8%	50.7%

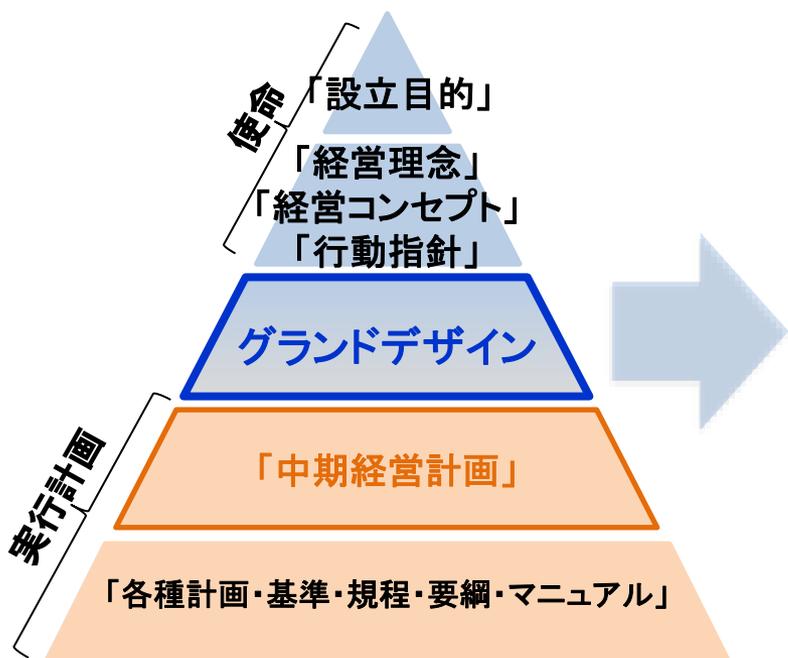
- ・毎年の業務を漫然と実施せず、状況把握や内容精査を行い業務を実施
- ・業務継続に繋がるリモートワークやWEB会議を積極的に活用
- ・維持業務を実施する中で、利用者目線での対応することを心がけている
- ・事故対応時にはお客様の安全を第一に業務を実施
- ・受注者との対応時には、コンプライアンスの遵守を意識 etc.

(2) グランドデザインの策定

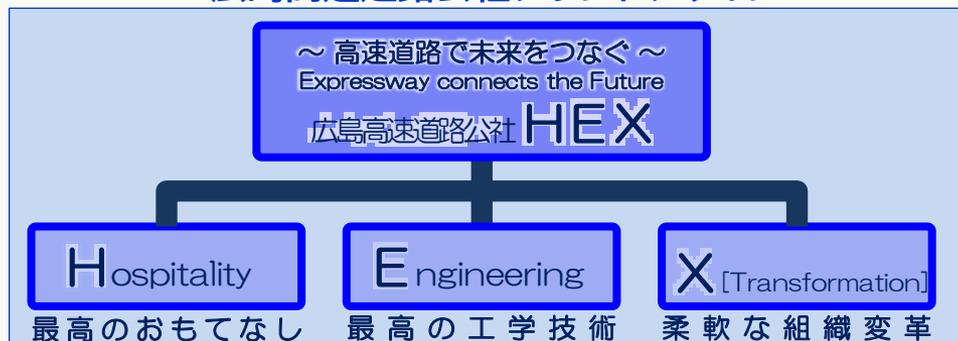
○ グランドデザインは、社会環境の変化に適切に対応し、経営理念*等の使命を忘れず着実に事業を継続するため、事業全体を俯瞰した30年先の目指すべき将来像と取組方針を示す

※ 経営理念：広域的な経済活動と安全・安心な暮らしを支える道路サービスを持続的かつ効率的に提供し、活力とにぎわいのある広島都市圏への発展に貢献します

広島高速道路グランドデザインの位置付け



広島高速道路公社グランドデザイン



夢見る未来・貢献から牽引・「ブランド」という信頼の獲得
更なる挑戦目標を「広島高速道路公社HEX」と位置付け取組を推進

~HEX実現プロセス~ 新たなあたりまえ

10の目指すべき将来像を「新たなあたりまえ」と位置付け、弛まない努力で未来志向で主体的・能動的な組織のS Xを推進し、事業の全体最適化を図ります。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ① 常に安全・安心を提供する組織体制 | ⑥ 魅力的で働きやすい職場環境の構築 |
| ② お客様とのサービスの共創 | ⑦ 積極的な事業展開と収益力の強化 |
| ③ 更なるネットワークの発展・拡大 | ⑧ 社会的責任を支える組織文化の形成 |
| ④ 未来を見据えた設計・施工 | ⑨ 連携の拡大と都市機能の全体最適化 |
| ⑤ 新技術導入とリソースの最適配分 | ⑩ 目指すべき将来像の確かな実現 |

中期経営計画

- 経営理念の実現に向け、令和3年度から6年度までの取組をまとめた「中期経営計画」を策定
- グランドデザインの将来像と常に照らし合わせながら、10年後の目指す姿を念頭に、計画期間で達成すべき22の具体的な取組を推進

経営コンセプト1 ネットワークの提供 質の高い高速道路	1 重点 広島高速5号線事業の推進
	2 重点 ネットワーク機能の拡充
	3 重点 老朽化対策の推進
	4 重点 予防保全対策の推進
	5 重点 第三者被害の未然防止
	6 重点 新技術を活用した効率的かつ高精度な道路維持管理
	7 計画的かつ高度化された設備更新
経営コンセプト2 ける道路サービスの提供 お客様に満足していただく	8 重点 大規模地震等の災害に対応した交通管理・管制体制の運用
	9 重点 激甚災害に耐えうる道路施設の強靱化
	10 重点 交通事故の削減
経営コンセプト3 強固な経営基盤の構築	11 重点 逆走、誤進入の削減
	12 お客様のニーズを的確に把握し、施策へ反映
	13 お客様が求める情報を的確に提供
	14 最適な料金施策の実現等による収益力向上
	15 「道路管理のグランドデザイン(仮称)」の策定
	16 重点 公社ガバナンスの強化
	17 重点 将来を見据えた組織づくり
	18 重点 職員が幸せを感じる職場環境の整備
	19 情報通信技術を活用した事業の効率化
	20 業務継続計画の見直し(災害、新型コロナウイルス等全般)
	21 環境負荷の低減
	22 地域社会と共生する開かれた公社の実現

<目指す姿からのバックキャスト>

中期経営計画期間で
達成すべき目標

目指す姿
(10年後)

対応を要する橋梁の
修繕数
(健全度Ⅲの橋梁7橋
のうち3橋を修繕)

措置を講ずべき橋梁の
修繕を完了している。

中期経営計画期間で
達成すべき目標

目指す姿
(10年後)

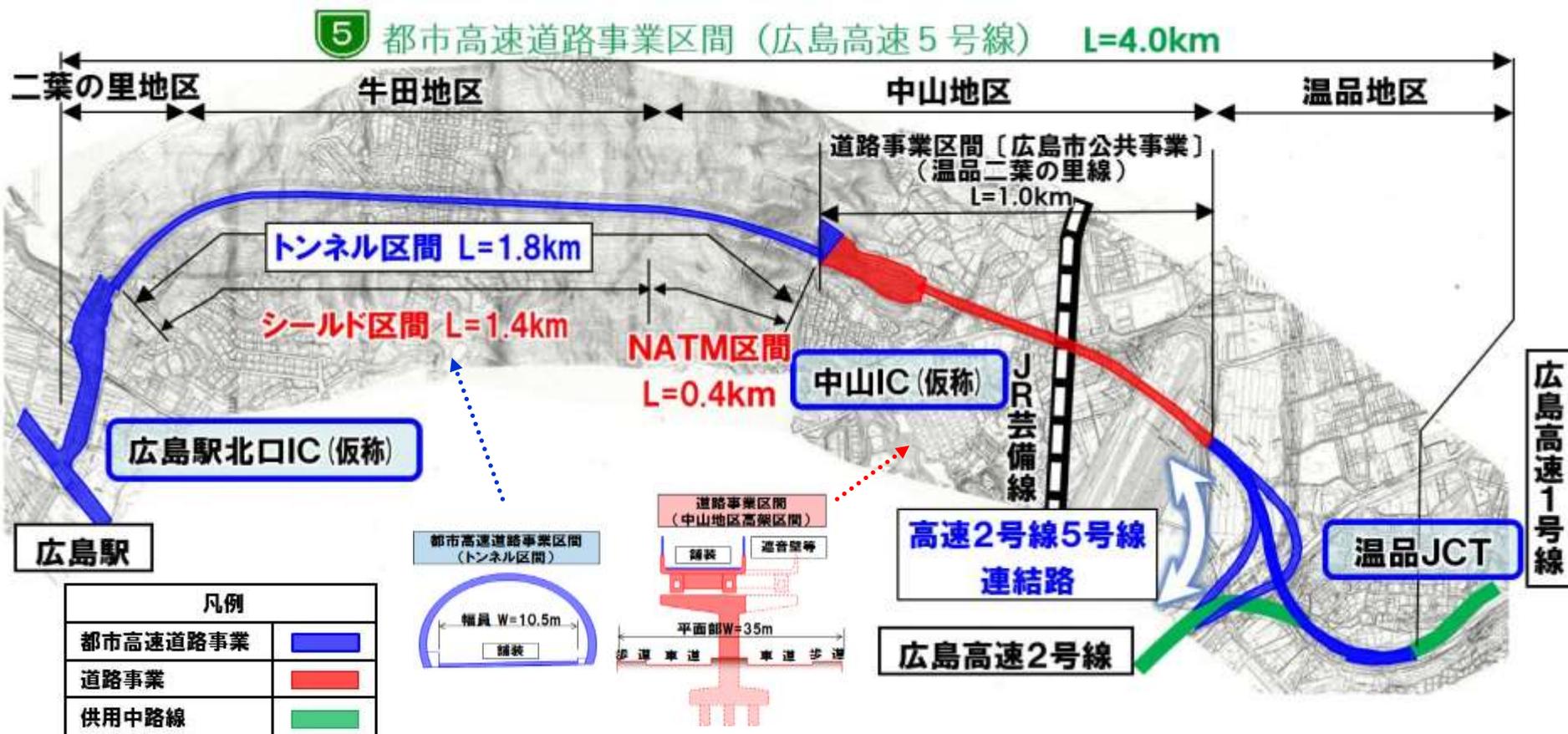
事故率
(82.9件/億台^千、
⇒75件/億台^千以下)

速度超過車両の速度が
抑制され、合流部等の
円滑な通行が可能と
なっている。

議題3 高速5号線の整備

全体概要

- 公社が施行する都市高速道路事業（事業費1,259億円）と広島市が施行する道路事業（事業費 約209億円）の合併施行により事業を推進
- 令和2年度末までの事業費計 約1023億円、事業進捗率 約80%※（うち用地取得進捗率100% [暫定2車線区間]）



二葉の里地区 (広島駅北口)

- ・平成29年3月：橋梁工事完成
- ・現在は、トンネル工事の施工ヤードとして使用
- ・完成時は広島駅北口IC (仮称) として供用

中山地区

- ・令和3年3月：NATM区間完成
- ・令和4年3月：橋梁工事完成 (広島市公共事業)
- ・令和3年度は、中山IC (仮称) 周辺の法面工事等を施工中
- ・完成時は中山IC (仮称) として供用

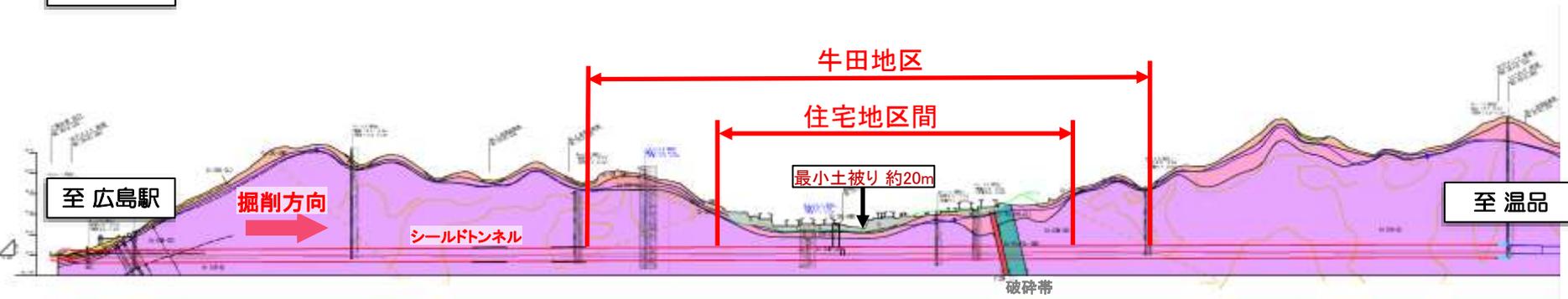
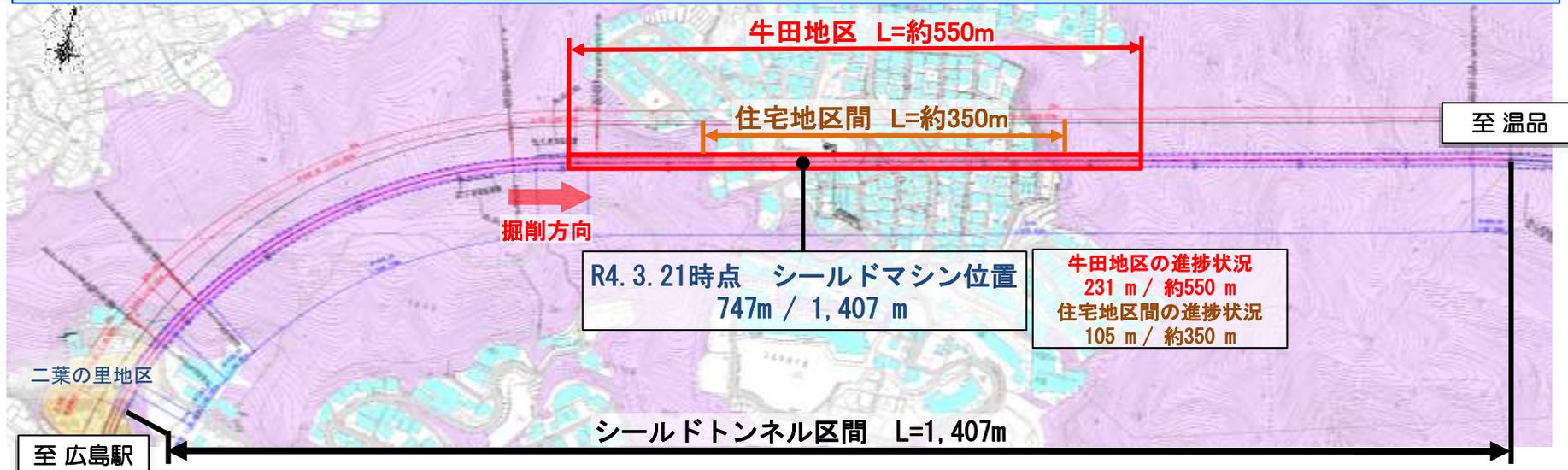
温品地区

- ・令和2年1月：高速2号線5号線 連結路事業着手
- ・5号線本線と連結路の接合部分の橋梁工事の発注準備中
- ・橋梁詳細設計を実施中
- ・高速1号線、2号線及び一般道路等の安全な通行確保等について、関係機関と協議調整中



(1)トンネル区間の工事進捗状況

- 平成30年9月：二葉の里地区より掘削開始
- 令和 3年4月：牛田地区の掘削に着手、現在、牛田地区住宅地区間を掘進中(3月21日時点 747m / 1,407m)
- 残る牛田地区の今後の見込等を踏まえると、高速5号線本線の令和4年度の完成は困難な状況
- 住民の安全・安心を第一に慎重に掘削を進めているところであり、今後、牛田地区の掘削の見通しがたった段階で完成時期を整理



牛田住宅地区間の施工状況

- 令和3年10月25日に牛田地区の住宅地区間の掘削に着手
- 住宅地区間に入ってから、シールドマシンのトラブルによる点検をこれまでに3回実施
- 点検の結果では、カッターの固定部品の脱落等が確認された
- 引き続き、地表面変位を管理値内に収めるよう適切な施工管理を行いながら、住宅地区間の掘削を推進

■カッター固定部品の脱落の状況（2回目臨時点検）



■トラブル発生時の点検結果

- 1回目：11月12日 674m/1,407m カッター摩耗検知装置の脱落
 - 2回目：1月17日 735m/1,407m カッター固定部品の脱落
 - 3回目：2月9日 742m/1,407m カッター摩耗検知装置の脱落
- ※ 牛田地区住宅地区間では、3回の計画カッター交換を予定

(2) 住民の安心構築に向けた取組

○地域住民の皆様の不安を可能な限り払拭し、安心と理解が得られるよう丁寧に対応

○安全・安心対策協議会での意見交換等

- ・概ね2週間に1回の頻度で開催し、住民代表、公社、施工業者等が直接意見交換を実施
- ・臨時点検等の実施時には、速やかに住民代表へ情報提供



○相談窓口（現場ステーション）の設置

- ・掘削日は公社職員または計測コンサルタントが常駐対応（午前8時から午後6時まで）
- ・工事進捗、各種計測結果等を公表

【掲示】

- ・シールドマシンの位置
- ・計測情報



○「トンネル工事情報」の定期配布

- ・月1回程度、牛田住宅地のトンネル掘削状況報告を全戸へ配布

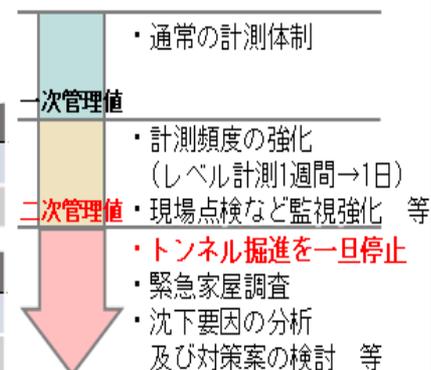


○管理値による安全確保

- ・二次管理値に達しないことを目標に施工
- ・管理値に達した場合は調停に基づき対応

(トンネル掘削の管理値)
地域住民と調停を締結

項目	地表面変位	
一次管理値	1. 3mm	
二次管理値	2. 4mm	
項目	騒音(昼間)	振動(昼間)
一次管理値	50 dB	60 dB
二次管理値	55 dB	65 dB



議題4 今後の取組

広島高速道路の機能強化

ア 広島都市圏の開発等の進展

○ 広島都市圏では、都心の開発やサッカースタジアムの建設、空港・港湾の機能強化に向けた取組が進展

サッカースタジアムの建設

観客席3万人規模のサッカースタジアムが建設中(R6春完成予定)



広島市HP

ひろしまモビリティゲートの建設

アジア圏随一のモビリティエンターテイメント施設の計画



広島県HP

広島港の物流拠点としての機能強化

・「NEXT10」により、10年以内にコンテナ取扱量の強化などが計画

- ・出島コンテナターミナルの新バース整備などによるHUB構想
- ・広島西飛行場跡地及び江波地区に大型物流施設が建設中



「DPL広島観音」※R3年11月完成
大和ハウス工業株式会社HP



「GPL広島Ⅱ」
日本GLP株式会社HP

紙屋町・八丁堀地区等の開発

市営基町駐車場周辺やYMCA周辺の再開発事業などが推進



広島八丁堀3・7地区市街地再開発準備組合 朝日新聞社HP

広島国際空港の広域拠点の機能強化

- ・30年後には現在の12路線から30路線に拡大、年間旅客数を現在の300万人から586万人に拡大
- ・広島市内方面バスの大幅増発等により新幹線への接続強化を予定



広島空港HP

広島駅周辺地区の開発

- ・広島駅ビル建て替え
商業施設やシネマコンプレックス、ホテル、駐車場を有する新駅ビルが建設 (R7開業予定)

- ・広島JPビルディングの建設
広島東郵便局跡地にオフィスタウン、カフェテリア、駐車場を有するオフィスビルが建設 (R4開業予定)



広島市HP

日本郵便HP



イ 今後の整備検討路線

- 都市圏の開発等の進展と連携し、幹線道路ネットワークを充実・強化
- 今後の整備検討路線について関係機関と連携して検討を行い、広島高速道路の機能を強化

路線名	今後の整備検討
高速1号線	—
高速2号線	・東雲南向きICの追加 ・東雲IC～仁保ICの4車線化
高速3号線	・江波ICの追加 ・宇品IC～観音ICの4車線化 ・観音IC～商工センター区間の整備
高速4号線	・山陽自動車道との接続
高速5号線	・暫定2車線整備中(4車線化)
構想路線	・東部線Ⅱ期、南北線、草津沼田道路

凡例	
広島 高速 道路	整備計画路線
	供用区間 (2車線) (4車線)
	事業中区間
	未整備区間
	整備IC
	未整備IC
	基本計画路線等
	構想路線
	高規格幹線道路
	一般国道(直轄)
その他有料道路	
その他道路	

